

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

冬になると、町のようすは大きく変わります。朝、外に出ると、空気はとてもつめたく、ほほに当たる風がひんやりと感じられます。

いきをはくと白く見えることがあります。これを「白い息」といい、冬らしさを感じさせる季語の一つです。

道ばたの草には、つめたい夜のあいだに「霜（しも）」がおりて、きらきら光っていることもあります。手でさわるとつめたく、朝の光の中で小さくかがやくようすは、冬ならではの景色です。

昼になっても、冬の風はつめたく、「北風」がふく日も多くなります。

北風がふくと、体はさむく感じますが、空はすんで、遠くの山までよく見えることがあります。

夏とはちがい、雲が少ない日もあり、空の青さがはっきり見えるのも冬のとくちょうです。

コートや手ぶくろ、マフラーをつけて歩く人の方を見えると、季節が冬になったことがよく分かります。

道を歩くと、足音が少し大きく聞こえることもあり、空気をつめたさを感じさせます。

ときどき、空から「雪」がふる日もあります。

はじめて雪がふることを「初雪」といい、これも冬の季語として知られています。

雪がふると、町はいつもとちがう白い色につつまれ、音も少し小さく聞こえるようになります。

木のえだや屋根の上に雪がつもると、まわりのようすがまるでべつの場所のように見えることもあります。

子どもたちは、ゆきだるまを作ったり、雪の上に足あとをつけたりして、冬ならではのあそびを楽しみます。

夕方になると、日がしずむのが早く、外はすくなくらくなります。

つめたい風の中を歩いて家に帰ると、へやの中では「こたつ」やだんぼうがついていて、あたたかく感じられます。

つめたい外からあたたかいへやに入ったとき、体の力がぬけて、ほっとした気持ちになる人も多いでしょう。

このようなくらしの中のようすも、冬を感じさせる大切な場面です。

あたたかい飲み物をのむと、手の先まで少しずつあたたまっていくのが分かります。

夜になると、外はさらにさむくなり、空気がすんで星がきれいに見える日もあります。

朝の霜、昼の北風、雪や初雪、白い息、こたつのあたたかさなど、冬にはたくさん季語があります。

これらの言葉を知っていると、毎日の生活の中で、冬のようにすをよりはっきり感じ取ることができそうです。

ただ「さむい」と思うだけでなく、見たものや感じたことを言葉にすることで、季節はもっと身近になります。

冬の季語は、さむさの中にある冬らしさを、わたしたちに教えてくれる大切な言葉なのです。



(1) 文章のはじめで、冬の朝のようすとして、正しく書かれているものを一つ選びましょう。

- ① 空気があたたかく、白い息は見えない
- ② 空気がつめたく、息をはくと白く見えることがある
- ③ 風は弱く、霜はおりない
- ④ 朝でも日ざしが強く、手ぶくろはいらない

(2) つぎの文は、文章の内容をまとめたものです。

① () ② () ③ () に入る言葉を、【語群】からそれぞれ一つずつ選びましょう。

冬の朝には、息をはくと () ① () 見えることがあり、道ばたの草には () ② () がおりて光ることがあります。

また、はじめて雪がふることを () ③ () とい、これも冬の季語の一つです。

- ① ()
- ② ()
- ③ ()

【語群】

ア	白い息	イ	北風	ウ	初雪
エ	霜	オ	こたつ	カ	しずく

(3) 文章では、なぜ北風がふくと「冬らしい」と感じると書いてありますか。本文の内容に合わせて二十字以内で書きましょう。

(4) つぎの文は、文章の内容と合っていますか。正しいものには「○」、ちがっているものには「×」を書きましよう。

- () 北風がふくと、空はすんで遠くまで見えることがあると書いてある。
- () 雪がふると、町の音は大きく聞こえるようになると書いてある。
- () 夕方になると、日がしずむのが遅いと書いてある。

(5) 雪がふったあとの町のようすとして、文章に合っているものを一つ選びましよう。

- ① 町はいつもと同じ色で、音も変わらない
- ② 町は白い色につつまれ、音が少し小さく聞こえる
- ③ 町は暗くなり、人は外に出なくなる
- ④ 町はあたたかくなり、星が見えなくなる

(6) この文章で、筆者がいちばん伝えたいこととして、文章全体の内容に最も合っているものを一つ選びましよう。

- ① 冬は白い息や霜、雪などが見られるため、外に出ると体にこたえる季節であるということ
- ② 冬の楽しみは、雪がふった日だけにかぎられ、ふだんのくらしでは感じにくいということ
- ③ 冬の季語を知ること、見たり感じたりした日々の出来事から、冬のようすをよりはっきり味わえるようになるということ
- ④ 冬はほかの季節よりも生活のくふうが多く、こたつやだんぼうにたよる季節であるということ

(1) 文章のはじめで、冬の朝のようすとして、正しく書かれているものを一つ選びましょう。

- ① 空気があたたかく、白い息は見えない
- ② 空気がつめたく、息をはくと白く見えることがある
- ③ 風は弱く、霜はおりない
- ④ 朝でも日ざしが強く、手ぶくろはいらない

(2) つぎの文は、文章の内容をまとめたものです。

① () ② () ③ () に入る言葉を、【語群】からそれぞれ一つずつ選びましょう。

冬の朝には、息をはくと () ① () 見えることがあり、道ばたの草には () ② () がおりて光ることがあります。

また、はじめて雪がふることを () ③ () とい、これも冬の季語の一つです。

- ① () **ア** ()
- ② () **エ** ()
- ③ () **ウ** ()

【語群】

ア	白い息	イ	北風	ウ	初雪
エ	霜	オ	こたつ	カ	しずく

(3) 文章では、なぜ北風がふくと「冬らしい」と感じると書いてありますか。本文の内容に合わせて二十字以内で書きましょう。

解答例

空がすんで遠くまでの山まで見えるから。

(4) つぎの文は、文章の内容と合っていますか。正しいものには「○」、ちがっているものには「×」を書きましよう。

- () ○ () 北風がふくと、空はすんで遠くまで見えることがあると書いてある。
- () × () 雪がふると、町の音は大きく聞こえるようになると書いてある。
- () × () 夕方になると、日がしずむのが遅いと書いてある。

(5) 雪がふったあとの町のようすとして、文章に合っているものを一つ選びましよう。

- ① 町はいつもと同じ色で、音も変わらない
- ② 町は白い色につつまれ、音が少し小さく聞こえる
- ③ 町は暗くなり、人は外に出なくなる
- ④ 町はあたたかくなり、星が見えなくなる

(6) この文章で、筆者がいちばん伝えたいこととして、文章全体の内容に最も合っているものを一つ選びましよう。

- ① 冬は白い息や霜、雪などが見られるため、外に出ると体にこたえる季節であるということ
- ② 冬の楽しみは、雪がふった日だけにかぎられ、ふだんのくらしでは感じにくいということ
- ③ 冬の季語を知ること、見たり感じたりした日々の出来事から、冬のようすをよりはっきり味わえるようになるということ
- ④ 冬はほかの季節よりも生活のくふうが多く、こたつやだんぼうにたよる季節であるということ